

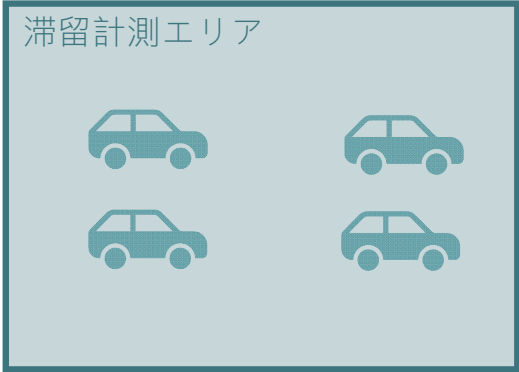
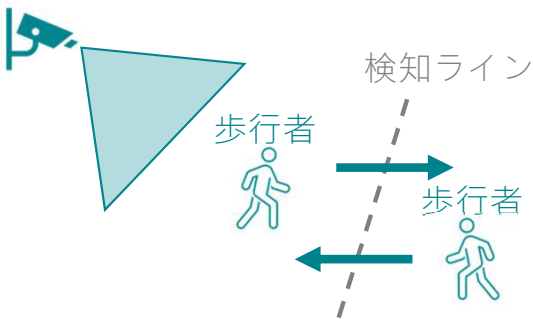
より安心安全な防犯カメラの 高度利活用サービスのご提案

共同提案者

中 部 電 力 株 式 会 社
東京海上日動火災保険株式会社

1 ご提案の概要 ～より安心安全な防犯カメラの高度利活用サービス～

AIを搭載した防犯カメラ「みまもりポール」を活用して安心安全の向上や地域活性化を支援
プライバシー影響評価（PIA）により情報を安全に管理・使用していることを事前に担保
社会的利益の最大化とプライバシーリスクの最小化の同時達成を図る進歩的な取組みを提案したい
将来はデータに基づく各種施策の効果検証や継続的な改善、Well-Being向上に貢献したい

AI搭載 カメラ 「みまもり ポール」 の機能	① 車の滞留時間の計測  - 映像内に設定する計測エリア内の車を検知し、車種を推定し、滞留時間を計測 - 計測エリアは映像内に複数設定することが可能	② 歩行者・自転車のカウント・通行方向の検出  - 映像内に設定する検知ラインを通過する歩行者や自転車を性別・年代を推定のうえ、カウントする - 検知ライン1本につき2方向の計測が可能 - 検知ラインは映像内に複数設定することが可能 - 歩行者・自転車の滞留傾向の把握も可能
特長	- 人間による交通量調査と同等の98%以上の検出精度、95%以上の属性判定精度の確認事例あり 1台のカメラで、カメラの方向を向いていない人も属性判定が可能 - カメラ映像はエッジボックス内で処理を行い、個人情報を含まない解析結果のみを利用	
PIA	プライバシー問題の懸念への対応として、今回提案する仕組みにおいて想定されるプライバシーリスクを事前に特定・評価（プライバシー影響評価：PIA）する	

3 (2) 安心安全への貢献：具体的なアイデア

当面：一宮駅ロータリーの車の動きを解析し、時間帯ごとの駐車台数や滞在時間を計測
将来：渋滞緩和策等の各種施策の継続的改善や混雑状況の利用者への情報提供などへ活用

当面の取組案



一宮駅ロータリーの車の滞留計測

- ・ ロータリーを見渡せる位置にカメラを設置
- ・ 駐車台数や滞留時間を計測
- ・ 計測結果はWebブラウザで閲覧可能
データ連携基盤にはCSVファイルで出力可能
- ・ 円滑なロータリー運用に向けた参考情報として
解析結果を活用いただけないか

将来の活用案

例示

① 施策の継続的改善に活用

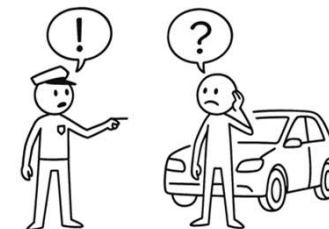
- ・ 新施策の効果の定量的把握により、更なる施策の改善に活用へ

② ロータリー利用者への情報提供

- ・ 利用状況・混雑状況をプライバシーに配慮した形で
データ連携基盤を介して情報提供し、行動変容に繋げていただく
(他社さま開発アプリとの連携も期待)

③ 車両への効率的案内とスペースの有効利用

- ・ 利用者さまへの空きスペースの案内や、
長時間駐車車両を警備員に通知し、適切に誘導することなどで、
限られたスペースの有効活用へ



④ 他地点・他用途への展開

- ・ 他地点の候補：他の混雑箇所、事故多発地点
- ・ 他用途の候補：交通量調査や各種混雑解消・交通安全・防犯施策の
効果の把握と継続的改善

実施協力：中電クラビス株式会社

5 (1) 市民の受容性確保：プライバシー影響評価（PIA）の概要

AIを搭載したカメラを活用したサービスに対するプライバシー問題の懸念への対策として、透明性の確保や信頼性の向上、市民のみなさまへの丁寧な説明が求められる

➡ サービス提供前に、プライバシー侵害リスクの特定・評価を実施し、評価結果を公表
サービス提供による社会的利益の最大化と、リスクの最小化の同時達成を図る

プライバシー影響評価（PIA：Privacy Impact Assessment）の進め方（初回）

1. 現状把握

①本事業の業務フローにおいて、取り扱うプライバシー情報の洗い出し

②取り扱うプライバシー情報の状態を調査



2. リスク評価

③プライバシー情報の機密性・完全性・可用性が損なわれるリスクシナリオを作成

④作成したリスクシナリオについて、発生した場合の影響度と起こりやすさを仮評価

⑤事業者の管理体制調査を行い、仮評価した結果の妥当性を検証

⑥リスクが高くなったリスクシナリオについて事業者追加対策を依頼

⑦追加対策結果を踏まえ、リスク評価を確定



3. PIA報告書作成・市民への説明

⑧有識者にリスク評価結果のレビューを実施

⑨市民に開示するためのPIA報告書（パブリックサマリ）を作成

⑩PIA報告書をもとに、実証実験前に住民説明会を開催

⑪市のホームページ等に、PIAパブリックサマリを公開

